

田矢城跡

伊賀市川合の集落から西に向って坂道を登り詰めると大江集落の引接寺に行き当たりますが、その背後の山が田矢城跡です。天正9年（1581）の織田信長による伊賀侵攻の際、城主の田矢氏を始め河合地域の人々が立て籠もった城と言われています。

伊賀地域では、中世城館跡が600ほど確認されています。田矢城跡は、その中でも規模が大きく、南北300mにわたり平坦地が並んでいます。その中央部に位置する主郭は、縦35m×横30mの広さがあり、防御のため周囲を堅固な土塁で囲み、北側および西側には、堀切を設けています。また、南側土塁の内側壁面は、高さ3m、長さ16mにわたり石垣が積まれるほか、南側の虎口（出入り口）周辺にも、石材が散乱し、石垣が積まれた可能性があります。



石材の使用は、伊賀の中世城館跡では、珍しく、ほかに音羽城と福地城、丸山城などで確認されています。主郭の西側にある一段高い20m四方の平坦地は橋台などの構築物が、設けられていた可能性があります。主郭の虎口は、南側土塁の東端部と東側土塁の中央部の2カ所があり、南側の虎口は正規の出入り口ですが、東側の虎口は、すぐ下が急斜面で道らしきものはなく、下からは斜面をよじ登らないと主郭内へ進入できません。このように東側の虎口は、東の谷道から攻め登る敵兵を迎へ撃つため城兵が打つて出る専ら戦闘での使用が想定される虎口と考えられます。

城跡からの眺望は良いとは言えませんが、周辺の尾根には出丸らしき遺構が残るほか、田矢城跡を東側に下ると、上山城跡や三蓋山城跡があり、有事の際には、これらの城と連動していたものと考えられます。

織田信長の事跡を記した『信長公記』は、田矢氏について次のように記しています。「河合の田屋と申す者、名譽の山桜の真壺ならびに、きんかうの壺、進上致し、降参

仕り候。即ち、きんかう返し遣わされ、山桜の御壺止め置かれ、滝川左近に下され候なり。」とあり、圧倒的な勢力で甲賀口から攻め入った信長の二男で総大将の織田信雄に対し城主の田矢氏は、大切にしていた名譽の壺を差し出し降参したことが記されています。

教育委員会生涯学習課

☎ 22・9681

伊賀市複合型総合防災訓練

空からの映像を災害対策本部に送信する訓練や、住民の一斉避難を周知する広報車、防災行政無線などを使った避難広報も行いました。

住民は避難広報を受け、消防団の誘導でロープを握り一斉に避難しました。また、水消火器やバケツを使った初期消火訓練、建物の下敷きになった人などを救出し、応急手当や仮救護所へ搬送する訓練も行いました。

ほかに河川の氾濫や道路被害により土のうで補強する訓練などや、避難所体験・非常炊出し訓練などもありました。

訓練に参加した約800人が災害への対応力を一層強化しました。

風水害や地震などの自然災害に備え、複合型総合防災訓練を、10月19日に緑ヶ丘中学校で市民の皆さんや防災関係機関・行政機関など48の参加機関と合同で行いました。

伊賀地域に大型で非常に強い台風が接近し、河川の増水や土砂災害の危険が高まっているなか、木津川断層を震源とした震度6強の内陸直下型地震が起こり、家屋の倒壊による人的被害や火災、道路・橋梁の損壊などの被害が発生している想定で訓練が始まりました。

災害対策本部長の指揮のもと消防本部赤バイ隊などが被災状況の情報収集を、また県警ヘリによる上



市の花
ササユリ



市の木
アカマツ



市の鳥
キジ